

2025年 7月 浜松聖書集会のご案内

(時間 : 午前10時 ~ 正午)

○ 7月 6日 (日) 集会

司 会 : 大手 美千代

(クリエート浜松 22号室)

聖書講話 : テサロニケの信徒への手紙 一、 1章1節~ 10節

「主に従い行く者」

水戸 潔

○ 7月13日 (日) 集会

(クリエート浜松 22号室)

司 会 : 溝口 春江

感話 : 武井 陽一

聖書講話 : マタイによる福音書

「開講の辞」 (1994年9月11日)

溝口 正

○ 7月27日 (日) 集会

(クリエート浜松 22号室)

司 会 : 生江 扶左子

聖書講話 : ヨハネの黙示録 21章9節~22章5節

「主と小羊とが都の神殿である」

武井 陽一

彼らの目の涙をことごとくぬぐい取ってくださる

溝口 正

ヨハネの黙示録21章4節の「彼らの目の涙をことごとくぬぐい取ってくださる。……」という言葉は、何と慰めにみちていることか。新しいエルサレムでは、もはや、苦しみも、悲しみも、死さえもなくなるのである。人々の涙をことごとくぬぐい取ってくださるのは神ご自身である。地上において弟子たちの足を洗われた主は、聖なる都においては、集められた人々の地上における苦しみを憐れんで涙をぬぐってくださるのである。神の愛の何と細やかで行き届いていることか。

我々人間が生活しているこの世は、「涙の谷」である。涙の原因は、到る所にあって数え切れない。特に信仰者の生涯は、苦難の涙に色どられることが多い。この世(最初のもの)は、罪と苦しみと死とが、すべての人々を襲うからである。我々キリスト者は信仰によって、かろうじて耐え忍び、希望の灯りを点(とも)し続けてくることができた。

しかし見よ、最後の裁きと共に、古い世界(最初のもの)は過ぎ去ったのである。まさに、電車が長いトンネルを通りぬけたときのように……。その先に明るく開けるのは、新しいエルサレムである。このことは、すでに7章に預言されていた。

「彼らは大きな苦難を通して来た者で、その衣を小羊の血で洗って白くしたのである。

それゆえ、彼らは神の玉座の前にいて、昼も夜もその神殿で神に仕える。

玉座に座っておられる方が、この者たちの上に幕屋を張る。

彼らは、もはや飢えることも渴くこともなく、太陽も、どのような暑さも、彼らを襲うことはない。玉座の中央におられる小羊が彼らの牧者となり、命の水の泉へ導き、神が彼らの目から涙をことごとくぬぐわれるからである。」(7・14~17)

この預言が最終的の成就し、完成されたのが新しいエルサレムである。ヨハネはこの幻をここに見たのである (新しい天と新しい地 『復活』第396号 1999年11月)